

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 327 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2012.01.30 (月) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\*発行部数 1159 部\*\*\*\*\*

□ 目 次 □-----

<今週の提言> 茶産地の歴史と災禍への生産者の対応

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.126』発行されました

<編集後記> 「めぞん一刻」と地球温暖化

---

<今週の提言> 茶産地の歴史と災禍への生産者の対応

---

朝の行いを、仏前への献茶から始められる方は少なくないと思われる。茶はさほどに我々日本人の生活になくってはならない存在である。茶の栽培面積は全国で約 3 万 ha。府県別には静岡を筆頭に、鹿児島・三重・福岡・京都と続き、これら 5 府県で 8 割を占める。そして産地は関東以西となっており、最北は茨城でその面積 188ha である (2005 年の統計)。

この茨城に、江戸時代に藩が茶園を奨励するとともに茶年貢を課していたと言われる「さしま茶」(近年までの通称「猿島茶」) が作られている。境町や坂東市など、茨城県西部の猿島台地で栽培されており、現在 (2008 年) の栽培面積は 106ha である。“夏は暑く冬は寒風を受ける内陸性気候の下、茶葉に厚みがあって、濃厚な味と香り、コクのあるのが特徴” とされる。

利根川をはさんで猿島台地とは対岸の野田市関宿に立地する千葉県立関宿城博物館が、昨秋 (平成 23 年)、企画展「猿島茶と水運～江戸後期から明治期を中心に～」を催した。この企画展では当地の茶の振興に貢献した二人の傑出した人物が紹介されていた。中山元成 [文政元 (1818) ～明治 25 (1892) 年] と野村佐平治 [文政 5 (1822) ～明治 35 (1902) 年] である。

中山は、幕末の日米修好通商条約締結交渉のころ、伊豆下田に赴きハリスの秘書フユスケンに猿島茶を見せ、売り込みを試みた。商談の成立は条約の締

結後で、米国ポール商会と契約、猿島茶は海外でも好評を得て、日本からの重要な輸出品目に一時期ならしめた。他方、野村は香りを重んじる製茶法の改良普及に尽くした、という。

こうした歴史を有する「さしま茶」であるが、昨年の福島原発事故では放射性物質の暫定基準値を超えた検出のため出荷停止に追い込まれ、生産流通がまったくできないという災禍に見舞われた。

この事態に、さしま茶協会をつくっている生産者たちは、先代たちが作り上げた歴史と伝統ある産地を消滅させてはならないと茶樹の中刈りや深刈りなどの作業を励行し、秋には出荷停止の解除にこぎ付けられた。茶樹の中刈りや深刈りは、行政からの指導を受けてというが、古葉に付着した放射性物質セシウムが新芽に移行するという茶での特性の判明を踏まえた、これを断つことを考えての対策である。

新たな年を迎えたが、当産地においてもこの災禍が克服され、本年が良い年となるよう祈りたい。

石川 秀勇

山崎農業研究所 幹事、千葉県野田市在住

yamazaki@yamazaki-i.org

---

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.126』発行されました

---

山崎農業研究所所報『耕 No.126』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

アグロノミストとして、太陽エネルギーの利用を考える◎塩谷哲夫

[第138回定例（現地）研究会]

小川光氏 山崎記念農業賞を祝う会

研究会——ものづくり・ひとづくり・むらづくり をめぐって

参加者の声 成尾和浩／永井智一／若松美香／益永八尋

[第 139 回定例研究会] 循環型社会と農業——とくに畜産との関係から

I 安全・安心こそいのち——牛飼い雑記◎峯村富治

II 有機性資源の循環利用による土の健康

——総合的養分管理の重要性◎松村昭治

[第 140 回定例研究会] 蘇れ、山と森と林

I 荒れ山を逆手にとれ！ 木のある暮らしの実践と楽しみ方◎大内正伸

II 荒れる人工林：森林管理から木材利用まで林業再構築をめざして◎鋸谷 茂

〈連載〉畦道・赤トンボのナショナルリズム [17]

科学とナショナルリズム／宇根 豊

---

<編集後記> 「めぞん一刻」と地球温暖化

---

年末以降、仕事に追われるスピードが加速し、しんどく感じる事が少なくな  
い。とりわけ朝の通勤ラッシュはこたえる。立ったままウトウトすることもある。

しかし立ったまま寝るのはまわりの人にも迷惑をかける。で、そんなときは単  
純におもしろく読める小説やら漫画やらに目を通すことにしている。先日手に  
したのは「めぞん一刻」。コンビニで、復刻版というか、数巻が1冊にまとめ  
られたものを見つけて購入した。

「めぞん一刻」というとなつかしく感じる人も多いだろう。調べてみるとウィ  
キペディアにも紹介されている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%81%E3%81%9E%E3%82%93%E4%B8%80%E5%88%BB>

復刻版は1月から発刊がはじまったようで、まだ1冊目なのだが、そのなかで  
浪人生・五代君が朝、凍った道で滑るというシーンが目にとまった。大雪が降  
ったとかということではなく、雨上がりの翌日のひどく冷え込んだ朝のシー  
ンだ。

「めぞん一刻」はいまから30年ほど前、昭和55～62年に描かれた漫画だが、こ

の頃まではそんな朝の風景もあったのだなあとあらためて感じ入った。今時は、先日のように雪が降ったあとでないと路面の凍結など、関東の平場ではほとんど気にならない。小学生の頃、冬の登校時にはあちこちで張っている氷で遊んだことも思い出しつつ、地球温暖化はたしかにすすんでいるのだと感じたのであった。

2012年01月26日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

---

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

---

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryō.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半 X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半 X という生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

-----  
次回 328 号の締め切りは 02 月 06 日、発行は 02 月 09 日の予定です。

---

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 327 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2012.01.30（月）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*